

【専門教育科目/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
緩和ケア論	NSP44_004	選択	1	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
吉岡 陸世	412	m.yoshioka	授業終了時、水曜日 16:00～17:00		
授業の目的・概要	身体的、心理精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛など全人的苦痛を持っている対象者とその家族へのQOLの維持・向上を目指した看護を理解することを目的とする。授業では、緩和ケアの歴史や現状、関連する法律や制度、緩和ケアにおけるチームアプローチ、倫理的問題、喪失と悲嘆のプロセス等緩和ケアの専門的知識を理解する。また、事例を用い、緩和ケアの対象となる人々が体験する思いを理解し、苦痛への適切な支援について考察する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	緩和ケアは病をもつ人全てが対象になる。これまでの看護の学びを緩和ケアの視点から振り返り、自己の看護を考える機会にすること。授業中に提示する課題に取り組み、レポートとしてまとめること。				
教科書	系統看護学講座 緩和ケア第3版 //編著:恒藤暁、田村恵子 他 /医学書院 /2020				
参考書	経過別成人看護学④終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア第2版/編著:田村恵子/ナカハレ社/2021				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	緩和ケアの基本的知識および理念が説明できる。		HSU(1),NS(1)(3)		
②	緩和ケアの対象者および家族の全人的苦痛の特徴について説明できる。		HSU(1),NS(1)~(4)		
③	緩和ケアにおける倫理的課題について説明できる。		HSU(1),NS(1)(3)		
④	緩和ケアにおけるチーム医療と看護師の役割について説明できる。		NS(1)~(4)		
⑤	緩和ケアにおけるスピリチュアルな要素とスピリチュアルケアについて説明できる。		HSU(1),NS(1)(3)(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	緩和ケアの歴史と理念、日本の緩和ケアの現状と制度、チーム医療の必要性、などについて学習する。	講義	事前課題：教科書 p2～35 を読み、ポイントをまとめる。	3	
2	緩和ケアの対象者と看護の特徴について学習する。(全人的苦痛・意思決定への支援/緩和ケアにおける看護介入/ケアの場等)	講義	事前課題：教科書 p63～72 を読みポイントをまとめる。	3	
3	緩和ケアにおける対象者の身体的苦痛とその看護について学習する。	講義	事前課題：教科書 p80～96 のポイントをまとめる。	3	
4	緩和ケアにおける対象者の心理・社会的苦痛とその看護について学習する。	講義	事前課題：教科書 p97～100、116～123 のポイントをまとめる。	3	
5	緩和ケアにおける対象者のスピリチュアルな苦痛とその看護について学習する。	講義	事前課題：教科書 p130～138 のポイントをまとめる。 事後課題①：緩和ケアの全人的苦痛についてレポートする。	6	
6	緩和ケアにおける倫理的課題について討議する。(QOL/尊厳死/安楽死/鎮静など)	講義 グループワーク	事前課題：教科書 p58～63、72～77 を読みポイントをまとめる。	3	
7	看取りのケアと家族へのケアを学習する。(死が近づいた時の変化、予期悲嘆/悲嘆ケアなど)	講義	事前課題：p224～254 のポイントをまとめる。	3	
8	緩和ケアについて討議する。	グループワーク プレゼンテーション	事後課題②：討議内容を基に、自己の学びをレポートする。	6	
試	達成度評価・評価のポイント参照				

【専門教育科目/看護の統合と発展】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	30	10	0	10	100
総合力指標	知識・技術力	30	10	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	10	4	0	0	24
	協調性・リーダーシップ	0	0	2	0	0	2
	発表・表現伝達する力	0	0	2	0	0	2
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
問題を発見・解決する力	10	10	2	0	0	22	
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	緩和ケアの基本的な知識について、定期試験により 50%で評価する。なお、試験への「教科書等持ち込み」は不可とする。				試験終了時に授業資料を基に振り返りを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①	✓	授業を重ねる中での学びの深まりを課題レポートで 50%評価する。 事後課題① 10% 事後課題② 20%				課題を添削し、返却時コメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	6・8 回目授業グループワークの記録物およびプレゼンテーション内容を評価する。				授業中にフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①		6・8 回目授業グループワークの授業への取り組み姿勢を評価する。(10%)				授業中にフィードバックする。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	6・8 回目授業グループワークの授業への取り組み姿勢を評価する。(10%)				授業中にフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	科目責任者は看護師として 10 年以上の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	実務経験のある教員の指導のもと、緩和ケアについて理解を深める。 教員の経験から緩和ケアの事例を取り上げ、教科書の内容をさらに深めながら学習する。						
その他	授業中の私語は禁止します。また、指示がある場合を除いた携帯電話、スマートフォン等電子機器類の使用は禁止します。これら受講態度に問題があり、注意をしても改善が見られない場合は、退室してもらいます。						